

(第2号様式)

宮 工 第 2285 号
令和7年 3月18日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立宮古工業高等学校
校長 真喜屋 強史
(公印省略)

令和6年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和6年12月11日付け教県第1582号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和6年7月18日	場所	管理棟 2F 会議室	出席 状況	学校評議員3名参加、1名欠席
第2回	日時	令和6年12月21日	場所	管理棟 2F 会議室	出席 状況	学校評議員3名参加、1名欠席
第3回	日時	令和7年3月17日	場所	管理棟 2F 会議室	出席 状況	学校評議員3名参加、1名欠席

2 学校評議員に求めた事項

学校長が掲げた今年度の教育目標や学校経営方針の確認、本校の抱える学校課題を共有し課題解決に向けての協力や意見を求めた。令和3年度から続く「恩返しプロジェクト」等を通して、地域貢献が実業高校としての大きな役割と考えており教育活動をマスコミを通じて積極的に発信、中学生へのアピールも重要と考える。しかし、宮古地区の受検生が3クラス分の人数が県外・島外に流出しており、いかにして島内にとどまってもらうかが大きな課題であり、魅力発信だけでは不十分である。進路選択肢が多様化する中、今後もこの流れは続くと思われるが、本校を選んで入学してくれた生徒達をいかにして立派な職業人として卒業させ社会に貢献させるかが我々教職員に与えられた使命であるので、学校評議員から意見を賜り今後活かしたい。令和5年度からの「サポートルーム」も本格的に運営を開始し、個々の生徒に合わせた教育活動・支援を充実させている。

3 学校評議員の意見

・昨年度の恩返しプロジェクトに続き、今年度の平和学習の取組・出前平和講話など地域貢献活動を次年度も継続して欲しい。
・働き方改革の取組状況・教員の負担軽減の進捗状況
・勤怠状況が令和4年・5年と比較し悪くなっている。原因を調査して対策や改善を図るべきである。
・資格取得に関する取組状況

4 学校運営に反映した事項

・昨年度に続き「宮古島まもる君」修繕活動を実施。「島マース交通安全御守り」の交通安全協会での配布や、平和朗読劇の通所リハビリセンターでの出前平和講話など地域貢献活動を今後も積極的に発信し地域の理解と協力を得る。
・清掃日の限定、ノースリーデーの設定(木)、3月入試期間中・学年末処理のための午前中授業の設定により職員が放課後、生徒対応等に使える時間を増やした。
・勤怠状況・授業態度の改善のため「宮工スタンダード」(授業態度の10箇条)を設定し、次年度より客観的に教室に掲示することで全職員一致した指導ができるよう授業態度から改善する。

5 課題その他

・令和3年度より、学校の広報活動を抜本的に改革し、生徒ができることを母校や地域へ恩返しすることで工業高校で学べることや身につける事ができる資格や技術を実際に見てもらう事に力点を置いた広報活動を行っている。今後も更に推し進め、より工業高校の取組を理解してもらえるようプロジェクトを進めていきたい。昨年に引き続き、部活動の活性化が課題である。合同チームによる出場などを余儀なくされている部もあり、部活動の活性化と職員の働き方改革をバランスを取りながら、学校の活性化を図っていく必要がある。昨年開設した「サポートルーム」も、今年度は利用しやすいようルール整備し生徒達が気軽に相談できる場とした。後半は少し利用方法がルーズになりがちだったが、そこから得られた生徒指導上の情報も不登校や問題行動の未然防止に繋がった。離島勤務3年で職員が入れ替わるため指導方針を大きく変えにくい。1年目の教員がおかしいと思った内容や方針は積極的に意見を出し改善していく風土の醸成が必要である。